●下富良野驛

本驛は石狩國空知郡富良野村大字下富良野村にあり、下富良野村は東西八里南北十八里の大村落にして殆んど本道の中央に位す、此地は今を去ること十年以前に於ては廣漠たる樹林鬱蒼の地たりしに、明治三十年初めて殖民せし以來鐵道の開通と共に年々移住するもの多きを加へ現今の戸數千餘人口二千餘に達し、尙年々增加するの有樣にして市街商家軒を連ね亦た農業甚だ盛況を呈し、東北農科大學第八學用地及東京農科大學演習林其他大農場、牧場、軸木製造場等所々に散在し、十勝全線に於ける第一の繁榮の土地たり。

●特產物　著名の產物としては木材、軸木、枕木等の原產地として最も名あり、殊に椴、蝦松等の大樹巨木は空知川上流より落合に至る間に繁茂錯綜せるにより將來に於ける用材供給地として頗る好望の地たり、其他農產物は大豆、蕎麥等共重もなるものとす、停車場より二里半の「トナシコベツ」川より砂金を產出し、「オプタケシケ」硫黃山麓より良質なる花崗石等を產出す。

●工業　挽材事業を目的とせる富良野產業株式會社あり、社長本間十一氏及鈴木峯治遠藤德三郎氏等の經營に係るものにして資本金五萬圓なりとす試に明治四十年半上期の當驛に於ける木材の販賣高を調査するに約二百萬圓餘なりと云ふ。

●旅館、料理店　旅館の有名なるものは、曲直印清水、丸太印太田、驛遞所兜谷等にして料理店は富士屋を以て第一とす。

●山部驛

本驛は石狩國富良野村大字山部にあり。

●金山驛（公衆電報取扱驛）

本驛は石狩國空知郡富良野村大字金山にあり、本村は明治二十五年の頃始めて砂金を發見したるを以て遂に此村名を附せりと云ふ、此地風景頗る絕佳空知川の淸流蜿蜒として老松翠滴るの間を流れ秋季は滿山の霜葉燦然五彩の美を飾り其壯觀一たび此地を過ぎる者の忘れざる所なり。

●鹿越驛（公衆電報取扱驛）

本驛は石狩國富良野村大字鹿越にあり。

●幾寅驛（公衆電報取扱驛）

本驛は石狩國富良野村字幾寅にあり。

●落合驛（公衆電報取扱驛）

本驛は石狩國空知郡下富良野村字落合にあり、落合とは「ルーヌ」空知道のある空知川及「シー」（空知本流）の合流點にあるを以て此名稱あり、山靑く水淸く好箇の避暑地たり。

●狩勝驛

本驛は十勝國上川郡人舞村大字狩勝にあり、列車の當驛を去んとするや忽ち暗黑裡に入る、之石狩十勝國境に於ける所謂狩勝隧道なり、須臾にして再び光明界に出づるや放眸一番事窓を展げば身は雲上にありて茫々際涯なき十勝の一大原野を瞰下し、其雄大なる光景は實に心機をして一轉せしむ。

●新内驛

本驛は十勝國上川郡人舞村にあり、落合驛より當驛を經て新得驛に至る一帶の地は北海道の脊梁骨を形成せる十勝、石狩國境の山嶺を横斷する山間線にして此國境は實に北海道全線中の最高地點にして、海拔千七百餘呎なりとす。

●佐幌岳●は新内驛の背後にありて高さ四千七百二十五尺にして、此附近第一の高山なり、山容秀麗傾斜緩くして登山に最も容易なり、春季には山頂殘雪の間に尺餘の稚櫻處々に咲き亂れ其可憐の容姿は市塵の裡に得て見るべからず、若し夫れ移植して盆裡のものとせば騷客の珍品たるを失はず更に眼を一轉せば茫々際涯なき十勝、石狩の大原野を瞰下し其大觀宇宙を呑吐するの概あらしむ。

●新得驛

本驛は十勝國上川郡人舞村にあり。

●清水驛

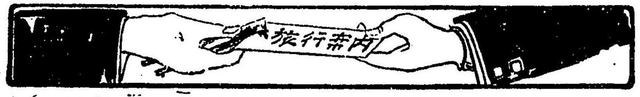
本驛は十勝國上川郡人舞村大字清水にあり、本村清水村は蝦夷語「ペケレベツし」(白川の意)と稱す蓋し此附近は概ね清冷なる白色の小石を一面に布ける小川なるを以て土人此名稱を附したるものなり。

●佐念頃驛

本驛は十勝國河西郡芽室村にあり。

●芽室驛

本驛は十勝國河西郡芽室村にあり。



●伏古驛

本驛は十勝國河西郡伏古村にあり。

●帯廣驛（公衆電報取扱驛）

本驛は十勝國河西郡帯廣町にあり、帯廣町は茫々たる十勝大原野の中央に位して四方開豁一點眼眸に遮ぎるものなく街衢整然所謂四通八達の便を有し、廣袤約方四十五丁戸數一千餘、人口五千有餘を算する旭川、釧路間に於ける有數の都市たり河西支廳、稅務署、監獄署、郵便局、病院、學校、新聞社等の諸設備の整ざるなし、此地は十勝全國の農産物の集散地なるを以て常に旅客の來往頗る繁し。

有名なる十勝●石●は此地方特有の産にして黑色玉の如く以て各種の美術品を製作すべし。

營業品目

醫業工業用藥品
一般醫科器械
消毒繃帶材料
全國有名賣藥
繪具染料品
寫眞材料

○業務親切 ○品質精撰
○値段勉强 ○出荷迅速
右多少に不拘御用命奉希上候

網塚分店
藥種問屋 **高島甲作**
釧路港眞砂町

●●●アイヌ部落　當驛を距る約一里の地に十勝國内第一の「アイヌ」の部落なり、伏古村落と稱す今は純然たる「アイヌ」固有の風俗を存するを以て好古家の研究資料を得る屈竟の所なり。

●●●農事試驗場　始め北海道廳十勝農事試驗場と稱せしが三十四年十月府縣農事試驗規程によりて其組織を變更して北海道廳地方農事試驗場十勝分場として存立せり。

●●●諸官衙　河西支廳、區裁判所、町村役場、警察署十勝監獄、二等測候所、郵便局、稅務署、尋常高等小學校等なり。

●●●農業　此附近一帶は農牧場に依つて其經濟根柢を作られたるを以て農、牧の事業頗る盛大なり。其重もなるものは利別大原野の池田農場、下利別の高島農場、板東農場、但馬國農場、近藤農場、復興社、高倉牧場、十勝開墾合資會社、晩成合資會社、津田開墾合資會社、利別農場、利別牧畜合名會社等とす。

●●工業　としては製線所、木工所二ヶ所製軸所七ヶ所精米所一ヶ所其他著きものなし。

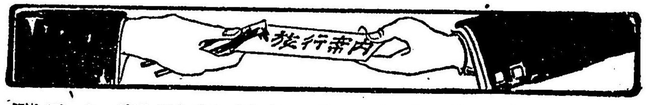
●●●金融機關　としては根室銀行帶廣支店あり。

●●商業　帶廣倉庫合資會社あり市街は廣濶にして大賈豪商軒を竝べて繁盛を極む其重なる信用ある大商店は、三井銅鐵店、高倉商店、珠玖呉服店、越後屋呉服店、遠野商店等とす。

●●旅館料理店　高等旅館として十勝全線中に有名なるは河西館、之に亞ぐに北海旅館、信陽館最も信用あり、料理店は待合樓最も名あり。

●止若驛

本驛は十勝國中川郡幕別村大字止若市街にあり、本村は北方遠く山脈連亘して西南一面平野にして



十勝、猿別兩川其中間を貫流し土地肥沃にして農產の豐富なる當國屈指の所たり、附近村落を合せて戶數一千五百餘人口殆んど六千に達す、止若市街は開驛後の發達に係り現今の戶數百餘戶を有し今後尙增加するに至るべし。

●●●白人温泉　停車場を距る僅に一里半白人村にあり また途別温泉は停車場を距る三里猿別村にあり其に鑛泉にして諸病に効驗著しく近來俄に浴客の來浴するもの頗る多し。

●●●藤吉病院　曾て京都醫科大學にて研鑽中たりし藤吉病院長藤吉敏雄氏此程業卒て歸村し從來の藤吉醫院の組織を變更して病院組織と爲し大規模を以て開業せり氏が多年蘊蓄したる學術と手腕とを實地に應用し以て患者に施術す刀圭界の爲め人意を強ふするものあり。

●●工業　としては未だ見るべきものなきも札幌の久保煉瓦製造工場、帝國製麻會社の製線所等あり。

●旅館、旅館は停車場前に山十印長岡旅館長岡千代ありて取扱の叮嚀と宿料の廉なるとを客室の清潔なるとを以て聞ゆ、また猿別村には曲鱗印川内屋あり。

●利別驛

本驛は十勝國中川郡凋寒村字利別太にあり、利別村は十勝利別兩川の合流點に位し土地肥沃にして戶數四百餘人口二千有餘開驛後の新市街地なれども市區整然商業の隆盛なる帶廣に亞ぎ十勝國中屈指の一市街なり、地勢北に山を負ひ西南一面に平原を控へ十勝川其市街の中央を貫流して舟楫の便あり農產及木材の輸出頗る盛大なり。

●●萩の名所　利別村の背後「フンベ」山は滿山一面青芝を以て蔽はれ萩の名所を以て有名なり、山上に登れば十勝原野を貫流する十勝川の巨流蜿蜒とし

て一眸の下にあり。

●八幡神社　「ブンベ」山の山腹にあり展望自在三日月沼は「ブンベ」山南麓にあり其形三日月に似たり池中多く鮒を産す。

●旅館　三浦屋旅館（館主三浦等六）は客室多く眺望に富み總て取扱親切にして十勝沿道中有名なる高等旅館とす、また停車場附近には利別旅館あり之れまた叮嚀にして廉なり。

●池田驛

本驛は十勝國中川郡凋寒村に在り、其附近一帶の土地は侯爵池田家の所有に屬し地勢平坦肥沃百穀實に豐饒の農業適地たり、西に利別川を控へ南は十勝川に臨み大に舟揖の便あり、殊に網走線鐵道の分岐點なるが爲め交通上至便至利の街となりて漸次全道有數の都會を以て目せらるゝに至らん。

●池田市街　去明治三十六年に創設、爾來年を逐ふて戸口增殖現今二百五十戸餘に達せり、其集散區域は網走線各驛の外に附近の池田農場十弗村、トーナイ原野等とす、開拓未だ其半に達せざるも尚ほ今日六百戸の農家を有す其開拓成るの曉に及べば優に二千戸以上に達する難事に非ざるべし。

●工場　池田市街及び其附近に橋本組製材所、館脇煉化石工場、赤松製軸所あり、何れも盛大に事業を經營しつゝあり。

●池田倉庫　池田停車場に接し尤も便利なる所にあり、其倉入品に對しては根室銀行より資金の貸出あり、爲めに池田市街に限らず最寄各驛の商家に利便を與ふること實に尠なからずと云ふ。

●旅館　千龍館、池田館、池菜館其他數軒あり、千龍館は宏壯美麗にして十勝地方に於ける屈指の旅店とす、池田館及び池菜館は倶に其構造千龍館に

及ばざるも旅客取扱の懇切叮嚀なることに至ては敢て遜色なきが如し。

●待合所　は江端五右衛門の新築にして構内至便の地にあり、運送店は諏訪孟次郎最も信用ありて取扱迅速なり。

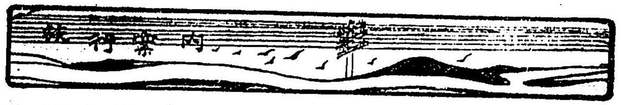
●池田農場　因州鳥取の舊藩主池田侯爵の經營に係り、其創業は去明治廿九年にして其農場反別は八百十七町歩餘、牧場地百廿三町歩餘を有し、小作人百廿三戸あり、同農場の進歩は小作人を保護奬勵するにありとなし其必要に應じ日歩金四錢の低利を以て金品を貸與し其他必要の農具、種子、肥料等は小作人の依賴に應じて之が買求の勢を採り若くは生産品は同農場事務所に於て之を買入れ或は委托販賣の周旋を爲す等、小作人の爲め頗る有益至便の方法を制定して小作人を保護奬勵せるを以て其成績最も佳良にして漸次生産額を增加せしめ隨て人口增加の趨勢を呈し土地開發農業進歩の上に偉大なる實績を現出し我北海道の開拓上鮮からざる裨益を與へ農場主の好模範を示しつゝあり

（口繪池田農場寫眞版參看）

●豐頃驛

本驛は十勝國中川郡茂岩村字豐頃にあり、本村豐頃村は停車場を距る約一里の地にあり、地味肥沃なり戸數は附近の各村を合して約四百八十餘人口三千五百餘あり、十勝川は村落の中央を貫流し農産物の輸送に至便なること十勝國中他に其比を見ず、又十勝川は其水源を十勝岳に發し停車場の前面を流れ海に注ぐ、流路水深く河口より幅廣の市街に至る約十五里間は以て舟楫を通ずべく、魚族亦多きを以て附近に漁民少なからず、殊に河口に當る大津は有名なる鮭の名産地を以て聞ゆ。

●アイヌの古戰場　は十勝川の對岸にある安骨村にあり、此地「チャシコッ」と稱し地形前面に十勝川を控へ右左に丘陵相對して自から城砦の觀を爲す



寛政二間十勝及釧路「アイヌ」の古戦場なりと云ふ。

津田開墾合資會社　明治三十二年二月の創立にして資本金六萬圓を以て土地開墾に従事す。

●浦幌驛

本驛は十勝國十勝郡生剛村字浦幌にあり。

●厚内驛

本驛は十勝國十勝郡十勝村字厚内にあり、厚内村は東南渺々たる蒼海に臨み西北は峯巒起伏し樹木鬱蒼の間溪流あり幽邃閑雅頗る山水の風光に富み殊に春秋櫻楓の候は一入騒客を喜ばしむ、氣候亦温和にして海岸に瀕するを以て將來は十勝線に於ける北海大磯たるに至らむ。

●音別驛

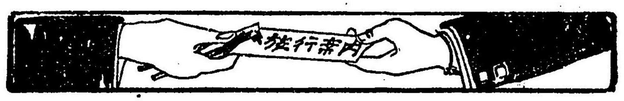
本驛は釧路國白糠郡尺別村字音別にあり。

●白糠驛

本驛は釧路國白糠郡白糠村にあり、白糠村は海濱の漁村にして背後山を負ひ戸數三百餘人口千三百内蕨土人約四百五十人餘あり此地舊天領と稱し德川氏の直轄にして一時備後福山藩の領する所なりしが僅一二年にして開拓使の管轄する處となれり舊時は「アイヌ」部落にして和人の移住せしは凡百五十年前乃ち寛政年間の頃なりと云ふ。

●庶路驛

本驛は釧路國白糠郡庶路村にあり。



鮮魚、鹽乾、魚、獸肉、青物、市場

特に遠方より御委托の荷物に對しては敏速に御便宜に取扱ひ申上候間多少に不拘續々御委托を乞ふ

株式會社

釧路魚市場

西弊舞河岸

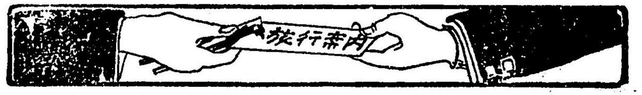
●大樂毛驛

本驛は釧路國釧路郡釧路村大字大樂毛村にあり。

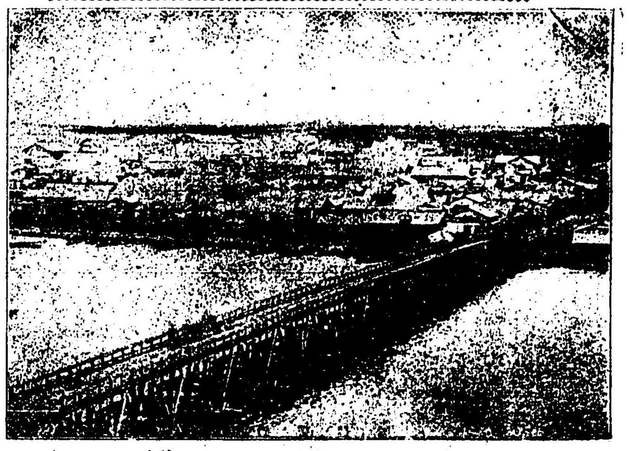
●釧路驛

本驛は釧路町字啞化西幣舞にあり、函館、釧路間横斷鐵道四百五十哩の東方終點驛にして小樽、函館に亞ぎ東海岸に於て室蘭港と相並んで最も有望なる要港たり。

●●●●●釧路港の位置　當港は北海道東海岸唯一の要港にして東經百四十四度廿三分十二秒、北緯四十二度五十八分三十六秒に位し、三面陸を環らし其西南は瑠璃一碧天を涵して太平洋に面せり、面積四百五十七方里之れを厚岸、釧路、川上、阿寒、白糠足寄の六郡に分つ、國の北西方は山嶽重疊起伏雄阿寒岳（五千百九十四尺）雄阿寒岳（五千三百三十六尺）等の高山聳立し、北方國境亦山嶽連亘すと雖も概して急傾斜の土地少なし、白糠岬は翠松紅楓を戴て遙に港口を掣し知人岬に連續する半海里餘の暗礁は自から天然の防波堤を爲し、港内五十萬坪を被覆する築堤の基礎となりて恰も人口を迎ふる者の如し、而して現今大形汽船の繫留する所は滿潮七尋干潮六尋の水深を保ら、海底は概して砂泥にして頗る船舶の碇泊に便なりと雖も一度西南の風波起るに際しては之を避るに途なし是れ本港の修築を急ぐ所以なり、又釧路川は本道に於る五大川の一にして遠く源を北方屈斜路湖（周圍十二里十五丁）に發し諸支流と共に別に阿寒湖（周廻六里二十二丁）より流るゝ阿寒川を合せ釧路港に注ぐ、流勢急ならず、舟楫の便十數里に達す、沿海五十四里餘概ね平坦の海岸にして、釧路、厚岸、霧多布等の良港灣を有す、又市街の高陵より展望せば遠く雄阿寒、雄阿寒の兩嶽は魏々として雲表に聳え蒼山碧水と相對し其風光頗る雄大壯觀を極む。



●●沿革　釧路は原名（クスリ）と稱し舊土人の語にして「越ゆる道」を意味し未開なる蝦夷の一部落なりしが、天明年間松前藩の支配に屬し寛政の始め佐野孫兵衛に漁場を請負はしむ享和二年に至り函館奉行の所管となり、海老名孫兵衛に請負を命じたるも、文化二年再び佐野孫兵衛に請負はしめ更に文政四年松前藩の所轄に屬す、弘化元年邊海警備の爲め戍員を置き砲臺を知人岬に築き燈火臺を設け、安政四年佐野孫右衛門南部地方より移住民を募る之を釧路永住者の嚆矢とす、明治二年蝦夷を北海道と改稱の際開拓使の直轄となり佐賀藩をして之を支配せしむ、同三年佐野孫右衛門亦奥羽地方より移住民二百三十戸を募り之に家屋漁具を與へ釧路其他に移住せしむ、同四年佐賀藩の支配を免じ、同五年根室支廳の治下に屬す、同十五年



北海道第一の長橋釧路幣舞橋

廢藩置縣に際し根室縣の管下と爲り、同十八年釧路郡役所を置き、同十九年廢縣置廳と共に北海道廳根室支廳の所管に移る、同廿年支廳の廢止と同時に本廳に於て直轄し、同三十年官制の改正に依り釧路郡役所の廢止あり現釧路支廳の管治に歸し同三十三年北海道一級町村制施行の結果釧路郡眞砂町、幣舞町、浦見町、米町、洲崎町、（入船町は後日編入）の五町と釧路、桂恋の二村を合せ一の自治團體を形成せり、回顧すれば本町は明治三年佐野孫右兵衛奥羽地方より移住民を募集せし當時は炊烟微々として、住民稀少の一寒漁浦に過ぎざりしもの、今や一變して戸數三千百八十六戸人口一萬四千三百三十九人に達し、本道名邑の一となり殆んど昔日の片影なく漁、工、鑛、商の業日に月に旺盛を致し駸々として其底止する所を知らざるのみならず、本道横斷鐵道の東方終點となりてより更に彌々發展となれり、如斯釧路港の將來は月と共に進み年と共に益々隆ならむこと必せり目下當港の幾多設備の俟つべきもの亦甚だ多からん現下中央政界を動かしつゝある築港問題の如き遂に四十二年度より工事に着手しつゝあり。而して茲に頗る焦眉の急を愬ふるものは實に棧橋架設の一事たり、而も當港進歩の現況は益々其架設の一日も忽にすべからざるものありて存す、編者は之が速成を要望して已まず。

釧路築港工事に就ての概要　當港修築工事は十勝釧路二國及び北見の一部に對する輸出入に備ふるを要し、此方面に於ける一ヶ年の生産高は約四十一萬圓内外を算するに至り、本道從來の實驗に徴するも一ヶ年の輸出額少くも百十五萬噸を下らざるべく、而して之れに對する入港船舶は約二百五十萬噸内外に達し港内に碇繫すべき船舶は約四萬噸内外と看做すを得べし、然れども今日に於ての施すべき釧路築港は規模尚小にして足れるを以て第一期工事として防波堤の築設、阿寒川の附替床止工事并河口導水堤の築設、防砂堤の築設。港内及釧路河口の浚渫并に床止工事に止む、其他は將來貿易發展に伴ひ漸次計畫を立つるものにして、之れ等の工事竣功せば面積一萬五千坪を埋立て別に面積三千坪の船入場を築設するものにして、十二ヶ年の繼續事業其工費總額四百七十五萬九千五百四十一圓にして明治四十二年度より之れが工事に着手し關屋技師專ら其衝に當りつゝあり。

市街の狀況　幣舞町、米町、浦見町は臺地にあり眞砂町、洲崎町、入船町、は平地にあり街衢廣く道路東西に長く眞砂町洲崎町は大賈豪商軒を列ねて繁華なり、釧路川の北岸を西幣舞町とし倉庫業海産商回漕業等最も多し。

諸官衙　幣舞町に釧路支廳、警察署あり、浦見町に釧路區裁判所、釧路聯隊區司令部、稅務署あり眞砂町に郵便局あり、洲崎町に釧路町役場あり、西幣舞町に帝國鐵道廳釧路派出所事務所等あり。

金融機關　としては眞砂町に根室銀行釧路支店、釧路銀行等あり。

商業　當町は鐵道の東方終點に當り前面釧路港を控ゆるを以て日常物貨の集散多く隨て商況活潑にして取引頻繁を極む、最近の調査に依れば、倉庫業者七あり其同、三上、日勝、村上、山縣、武宮、中川等にして日用輸入物貨は重もに產地と直接取引を爲すが故に比較的高價ならず、尚當町の大商店として有名なるものは鶴島、佐々木、林豐三郎商店支店、廣川、長谷川、馬場、丸三印越後屋吳服店、松屋商店、安藤商店、丸川印越後屋、十又印藤野吳服店、稲田吳服店、藤井、中川、飯塚、臼井、金子、大村の各商店及内地物產合資會社、中澤商店、橋本商店、水口肥料店、釧路興業株式會社、薪炭商會等なりとす。

農、漁、鑛、工業　農業は現下耕地六千八百七十町歩當業者七千八百九十人にして、海岸方面に居住するものは漁業者の兼業者にして自己の蔬菜類二十銀行釧路支店、釧路銀行等あり。

を栽培するに止るも、殖民地に居住する専業者は専ら馬耕器械等を使用して畑作に従事しつゝあるも、未だ移住者手後年久しからざるに依り伐根の如き各所に殘存し未だ土地の整理十分なるに至らず、隨て反當平均收穫額の如き少量なるを免れざるも年を逐て適當作物の收穫量を増加するに至らん、而して重なる耕作物は大麥、裸麥、燕麥、麥、玉蜀黍、蕎麥、蕓薹、胡羅蔔、牛蒡、牧草、大豆、小豆、菜豆、馬鈴薯、羅蔔等とす、漁業は當國の沿海は魚介藻類多く隨て之が採捕に従事するもの八千餘人ありと雖も、此等は概ね沿岸に於ける漁業に従事するものにして沖合漁業の如き遠洋漁業の如き未だ之に従事するもの多からず、厚岸郡厚岸湖には本邦稀れに見るカバチップを產す、沿海に於ける魚介藻の種類は鰊、鮭、鱒、鰐、鮑、鮪、平目、鮫、鱈、目抜鯛、白魚、章魚、鰕、蟹、海鼠、北寄、蛸、牡蠣、昆布等とす、鑛業は當國に多くの石炭、硫黄を包藏せらるゝが故に此が採掘に從事するもの年を逐て增加せり目下石炭の試掘に係るもの約三十八口二千三百萬坪、採掘鑛二十一口六百八十餘萬坪、炭山は春採安田炭山、山縣別保炭山、釧路炭礦會社の阿寒炭山、大阪の炭礦會社の別保炭山等其重もなるものとす、此他白糠炭山、昆布森炭山、岬炭山、仙鳳趾炭山等あり、硫黄山は阿寒郡他別村に一ヶ所、川上郡斜路村に一ヶ所あり、共に產額一萬圓を下らす、工業の重もなるものは製紙、軸木、製材、沃度、清酒等とす製紙は釧路郡釧路町に設置せる富士製紙會社の經營に係り原動機四百二十五馬力を用ひ白紙及連紙を製出す、最近の產額十七萬圓に達す、大日本燐寸軸木株式會社釧路工場は職工六七十人と汽機一臺を使用し軸木十萬圓を產出す、山縣釧路製材所又汽機關二臺を使用し製材約三萬圓を產出す、沃

度、清酒等は沿岸各地當業者の營む所にして其產額亦た少からず、魚菜市場株式會社は資本金二萬圓にして專務取締役佐々木桃作氏たり臼井硝子工場は同三十一年の創立にして一年の製造額亦少なからず。

安田炭山 其所在地は釧路國釧路郡釧路村大字春採にあり、乃ち安田商事合名會社釧路支店安田礦業所の經營に係るものたり、其石炭採掘の開始は去る明治十九年度の起工にして水準以上の炭採掘を爲せり、其水準以下の炭採掘に就ては同三十八年十一月より地上三百四十餘尺の竪坑を卸し、同四十二年二月に至りて炭層に着し直ちに其坑道の掘鑿に着手し、同四十二年七月より採炭しつゝあり、故に四十二年下期より續々多量の出炭額を見るに至れり、今試に其炭質の良否を檢するに百分中の水分三、九〇揮發分、同四六、一六、骸炭分同四四、九二灰分同五、〇二硫黄分同〇、五三なりとす、以て其良質たるを知るに足るべきなり。

牧畜業 地勢一體に急傾斜の個所少なく牧畜に適するの土地多きが故に斯業に從事するもの少からざるも未だ概ね創業の時代なるを免れざるに依り現今畜類を飼養しつゝある牧場は其數二十八に過ぎず、畜類の如き僅に牛(全部雜種)千五百五十頭馬九千八百六十頭其他羊豚鷄少許に過ぎず、去れど現下當業者は概ね鋭意改良繁殖を期圖しつゝあるが故に、目下貸付中の二萬八千町歩の牧場成功せられ尚此の以外に殘存する幾千萬坪の牧場適地利用せらるゝに至らば良種畜類の生產頗る多大なるに至らん、目下白糠郡白糠村にある一萬五千町歩の牧場を有する軍馬補充支部ありて軍馬の育成を爲しつゝあり、川上郡にも同補充部の豫定牧場二萬三千餘町歩設定せられたり、北海道廳種畜場に屬する豫定地も亦厚岸郡に存在せり、而して當釧路町に屬する私立牧場の重もなる七箇所の總地

積は九百六十五萬五千三百九十四坪にして牛六十八頭、馬六百六十七頭を收容せり、則ち前田、山縣、田中、小島、豐島、木村、神、等の各牧場は其規模稍々大にして其主たるものに屬するものなり、要するに釧路國は全く土地氣候共に牧畜事業に好適せるのみならず牧場適地として頗る廣大なる地積を有せるを以て編者は切に牧畜事業の旺盛なる時代に逢着せむことを希望して已まず。

●中戸川●牧場　故中戸川淺吉氏本道に於ける牧畜事業の有利なると共に斯業の本道開發上に興ふる所の裨益亦少からずとし夙に牧畜事業に熱中し、去る明治廿五年先づ小規模を以て釧路村に於て始めて斯業に從事し專ら坊間に生乳を供給せり、尚亞で其實兄たる東京の人中戸川平太郎氏と共同して釧路郡庶路村字大樂毛（目下の大樂毛停車場より東方約三十町）に地を卜し、未開地五百町歩の貸下を受け爾來事業の經營は淺吉氏其衝に當り苦心勵精遂に事業の進捗を見るに至り、現在牛の頭數貳百餘頭、馬五十餘頭に達し、其種牛は純粹の米國產ショルトホン貳頭及びアシャ種貳頭あり、種馬はトロータ種にして釧路國に於ける模範的牧場として前途益々斯業發達に留意しつゝありしに同四十一年四月中不幸にも淺吉氏病歿せられたるを以て現今は實兄たる中戸川平太郎氏其遺志を繼ひ專ら熱心に經營に從事せらる、當時當牧場の成功せるものは牧場クローバ開墾地五十町歩、同燕麥畑廿町歩、放牧地三百町歩にして、餘は樹林地なり而して目下の牛舍は四間に十六間のもの四棟事務所一ヶ所にして毎年十二月より翌年四月迄は重もに舍飼とし、其舍飼中の食料の如き一般斯業者の大いに研究すべき要あり、於是同氏は茲に大いに留意し飼料改良の目的を以て本年度よりインシレージの製造に着手し爲めに新に玉蜀黍畑二十町歩を開墾し盛んに飼料改良の實を擧ぐるにつき期る

釧路實業案內

次第不同

營業種目

●運送業
●明治生命保險株式會社代理店
●神戸海上運送火災保險株式會社
●海陸物產委托賣買
●倉庫業
●牧畜業

川豐島庄作

釧路眞砂町五十三番地

電話五番
電略（カ）

○銘酒菊泉
○銘酒金露
○龜甲常磐印醬油一手販賣
○米穀雜貨卸小賣商

中川岡商店

釧路港弊舞町

電話二三八番
電略（カワ）又ハ（カ）

北海道釧路港眞砂町

株式會社釧路銀行

電話十八番
電略(ク)

同派出所

電話三七二番

販賣品目

○和洋銅鐵
○萬塗物材料
○厚岸蠣灰
○諸金物一式
○度量衡器

釧路港眞砂町百番地

進藤安治郎商店

電話六十五番
電略(シント)又(シ)

內外米雜穀
委托賣買
問屋

和洋酒類
卸商

廣川川鉾治

電略(ヒロ)又(ヒ)

釧路港眞砂町

○營業品目○

丸釘鐵亞鉛引平板
同生子板武力板
諸金物金具細工一式
建築金物材料
土工具類一切
度量衡器販賣所

釧路眞砂町

高橋作兵衛

電話(一七〇番)

●品は精良 ●種類澤山 ●柄は嶄新 ●萬事正直一方
●直段は無類之勉強

齋藤吳服店

釧路港眞砂町
電話百五十番

●各元方へ出張仕入之新珍流行品澤山續々到着多少共御用命奉願上候

御印判
彫刻所

釧港路眞砂町
高梨桃成堂
高梨鳴鶴

吳服太物、和洋小間物
雜貨仕立物類
卸小賣

冬藤野四郎兵衛商店

釧路港眞砂町
電話(七十一番)

土木建築
請負業

元米倉直七
釧路港弊舞町

營業品目
米穀、醤油、味噌

釧路港眞砂町百番地
下村支店

●●釧路名物の元祖●●
▲かにせんべい
▲かにそぼろ
▲大鮃の味付そぼろ
●風味優秀お土産品として頗る好適の佳品

近頃弊店製品に似寄粗製品販賣するものあり（山榮印竹内）に御注目の上倍舊の御高需奉希候

釧路港洲崎町
製造販賣元祖
榮 竹内榮次郎

鮮魚各地荷送專業
蒲鉾、干魚、鹽魚類販賣

釧路港西弊舞十四番地
上 波岡商店
電略（ナミ）又ハ（ナ）

鮮魚各地荷送專業

釧路港西弊舞
一 武澤勝三郎
電略（〇一）又ハ（タ）

各國銘茶
和洋紙類文房具商
釧路港眞砂町
村上茶店

漬物、果實、
蔬菜、甘藷
委托問屋
釧路港眞砂町
金澤定市
電話四三三番
電略(カナ)又ハ(カ)

營業種目
和洋金物一式
度量衡販賣商
釧路港西弊舞
丸山庄次郎
電話三六〇番
電略(〇)又ハ(〇ヤマ)

○鐵材諸機械專門
○海陸諸機械專門
○鑛山諸機械專門
○車輪チルト專門
○農具建築用金物
釧路眞砂町廿一番地
高橋鑄鐵工場
電略(タカ)又は(タ)

清酒 福泉 山泉
米穀雜貨卸小賣
釧路港西弊舞五番地
酒店

日野艀部

釧路港

電話(二六番)
電略(ヒ)又ハ(ヒノ)

營業種目

倉庫業
貨物陸送業
鐵道構内積卸業

營業の設備

運送業は旭丸小蒸汽二艘大艀二艘を常備す、倉庫業は鐵道構内煉瓦庫二百八十餘坪又三百六十餘坪の外構外に三棟百七十餘坪の倉庫を有す、貨物運送は常に荷馬車三十臺を備へ迅速に且つ海陸運送運絡の便を謀る

各地取次店

早達組、浦幌組合、三上運送店、高野運送店、茅野運送店
㊂運送店、十勝運送組、上川運輸合資會社、栗山組、北都組、北海運輸合資會社、運送株式會社、和田運送店、内國通運會社取扱店

十勝國中川郡池田驛

㋝ 諏訪運送店

電略(ス)又ハ(スハ)

御旅館

市街中央便利の位置にして且座敷其他萬般の設備も遺憾なき樣に致し清潔と丁寧と御食事の材料は新鮮を撰み勉強致候間舊倍の御引立御投宿の程伏て奉希上候敬具

釧路港眞砂町一番地

㋝ 旅館 近江善吉

電話二三九番
電略(カクタイ)又ハ(カ)

牛肉 鶏肉 卸小賣
鶏肉スップ 朝夕配達

キ 釧路眞砂町 佐々木清兵衛

電話(二六三番)
電略(キト)又ハ(キ)

十勝國池田驛
根室銀行指定
池田倉庫
田中武治

牛鶏豚販
精肉賣
釧路港眞砂町
伊勢田肉店

酒類雜貨、鑵詰各種
釧路港眞砂町
越後屋
長谷川商店
電話(三十七番)

旅館
(しるじめ)
赤瓦斯燈
釧路停車場前
村上旅館
電話(三〇一番)
電略(カネイ)

和洋仕出し
御料理
十勝國池田市街
二鶴樓

釧路の旅館

高等旅館 輪島屋

眞砂町棧橋前

電話(百六十番)

(特長)本館の位置は釧路港第一の高燥の地にあり て一眸の下に山容水姿の景を恣にす

(特長)客室清潔、庖丁の鹽梅頗る注意、御旅情を慰むるに於ては殆んど遺憾なき御取扱ひは申すまでもなく御旅宿料の如き努めて廉を本旨とす

熱心に經營中なりと云ふ、尚同牧場の目的は牛の改良及び其繁殖を謀るにありて毎年の繁殖比例は五十餘頭を超過し漸次數百頭に達する亦た近き將來にあり、予は本道開發の爲め斯の如き好模範的牧場の多からむことを翹望して已まざるなり。

●交通　道路は釧路町を中心とし、西十勝に到る十勝街道あり北網走に到る網走街道あり、東根室に到る根室街道あり、根室街道と網走街道とを連結する標茶街道あり、俱に假定縣道にして路概ね平坦なり、此他各殖民地には殖民道路開鑿せられつゝありて總て此等の道路には三里乃至五六里を距てゝ驛逓を設置し旅客の宿泊貨物の輸送及乘馬旅行者の便を圖りつゝあり、陸路根室へ四十里、厚岸へ十五里、網走へ三十九里道路好良にして車馬の便あり海上函館二百十浬、厚岸へ三十三浬霧多布へ四十九浬根室へ九十五浬海上の交通は目下北海道廳の命令定期船毎月數回釧路港、厚岸港、霧多布に寄港するの外釧路、函館間及び沿岸諸港には絶へず汽船の往復するあり、且つ釧路港に於ては横濱、神戸、大阪其他各府縣の要港と直航するものありて、海上の航通は、横斷鐵道の全通と共に釧路港灣修築の急成されたらむには更に非常なる速度を加るに至るべきなり、東方根室に達すべき鐵道は未だ成らずと雖も西方十勝を經て旭川に達すべき釧路線の全通したるが故に、今後釧路附近の發達は勿論釧路國全般實業界の將來は非常なる好影響を受くるに至るべきは必然の趨勢なりとす。

●殖民地　當國に於ける殖民區各地は其數三十六、面積一億六千四百六十萬坪にして國内各地に在り西部地方の殖民地は地味良好にして氣温亦た比較的高く、加ふるに交通便なるが故に移住者日を逐ふて增加し、貸付の地積激增するに至れり、中部及東部地方の殖民地亦地味比較的良好ならざるにあらざるも目下交通の不便なるを以て未だ貸付の

場所多からず、四十年六月迄に貸付したる貸付中の地積は其數四千四百二十萬坪即ち全地積の約四分の一畑地六分牧場四分の割合に過ぎず。

●御料地　は川上郡に在り面積三萬町歩内御料林二萬三千五百町歩御料農地六千五百町歩にして御料林は年々多大の樹木を拂下げつゝあり、御料農地は小作法に依り農民を收容する所にして相當の補助あり、目下移住農家戸數八十戸餘普通農作の業に從事する外飼牛を事とす、御料農地は將來尚多數の農家を募入すべき餘裕あり。

●官林　當國の中部以北にあり面積四十萬二千六百三十四町歩未だ斧鉞の入らざる密林多し樹種は針葉樹にありては椴松、瞰夾松を主とし其他檜、鹽地、刺楸、桂、白楊等にして其材量一億二千萬尺締以上を有す。

●知人岬　は當町字米町にありて海拔百五十餘尺の高丘なり、東西約四百間東北約百間南は斷崖絶壁を隔てゝ、泄々たる大洋を迎へ、西北は蜿蜒たる釧路川の中央を流れ頓化「ペットマイ」大津海岸一帶より遠く北見、釧路、十勝の連山諸峰を雲霞の間に望みて脚下に釧路全市を一眸に蒐め得べく、更に視線を一轉すれば雌阿寒山高く雲表に聳立し山頂白雪を藏きて山容恰も富士の如く、沿岸の漁舟蒼浪の間に出沒し宛然一幅の畫圖を見るが如く、其風光人をして恍たらしむ。

●釧路川　は遠く水源を川上郡屈斜路に發し塘路雪路川及別保の諸川と合し此に來る其延長三十有五里河水深く舟楫の便あり、上流には幾多の佳景ありて、騷客の杖を曳くもの頗る多し。

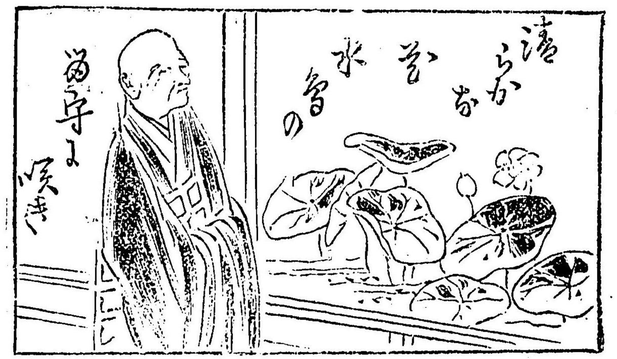
●春採公園　は市街の東方釧路村字春採にあり海拔八十餘尺其面積三十萬坪を占むと云ふ、南は太平洋西は阿寒山を遠望し釧路の全景を一眸の裡に收む。

●春採湖　は市街の東方約二十餘町「ヲニップ」海岸に接し瓢形の湖水にして釧路村字春採にあり、同湖の水源は春採炭山の諸渓谷より發し下流は春採海濱に注ぐ湖邊には、奇巖怪石多く古松老杉其間に錯綜繁茂し、水深二十有餘尋に及ぶ湖中魚介多く釣遊に好適す。

●雄阿寒山　は釧路町を距る約二十一里の地にある著名の火山あり、海拔四千九百五十尺山形圓錐狀をなし、山頂廣幅にして斷巖絶壁の間に五葉松葡萄等多く繁茂し四顧の風光頗る佳く、廣袤百餘里の間に散在せる幾多の巒峰は兒孫の脚下に俯伏するが如く遙かに石狩嶽と對峙し、其壯觀實に名狀すべからず。

●阿寒の瀑布　は阿寒湖の西岸にあり、本道第一の大瀑布にて、高さ三百間幅五十間水怒り岩激し水沫飛散盛夏尚肌粟を生じ避暑地として頗る屈竟の地なり。

●アイヌの城址　は市街の東方約十餘町釧路村字茂



尻矢にあり、前面に釧路川を控へ後方一帯の高丘は周圍に空壕ありて容易に攀躋する能はず、口碑によれば寛政の昔釧路土人の酋長敵を防ぐ爲めに築造せるものなりと云ふ、冬季は此の城址の四面雪を以て覆はれ其形狀佛前の供物に酷似せるを以て一名御供山とも稱す。

●炭山　●●●

日本燐寸株式會社軸木製造工場

（網走線高島驛）

●農場　停車場を距る十町餘高島農場あり其規模壯大にして夙に本道に於ける模範農場として名あり。

●工場　としては神戸に日本燐寸株式會社の軸木製造工場あり、本道に於ける製軸業者中に於て最も有名なるものに屬す該工場に於て製造したる軸木は直ちに神戸の同會社に送り同會社は之を燐寸に精製し海外に輸出す、其一箇年の製軸石數は實に夥しきものありと云ふ。

●旅館　壺原、丸川大野あり

●勇足驛

本驛は同郡勇足村にあり、附近一帶地味豐沃にして農業適地を以て名あり、目下の戸數百九戸人口四百五十餘人を有し將來農業の發達に伴ひ人口劇進し此地に一生面を發現するや蓋し遠きにあらざるべしと云ふ。

●利別農場　合名會社利別農場は德島縣選出代議士阪東鶴五郎、同小笠原鶴五郎、兵庫縣選出代議士牧野耕三、大阪同上秋岡義一、三重縣同上木村督太郎等の五氏が組合を以て、明治三十年一月中川郡蓋派原野及び本別原野に涉り押帶、勇足、幌蓋の各數箇村に跨れる未開地一千百町歩餘の豫定存置の許可を得たるを以て、德島縣人にして農場經營に經驗ある東條儀三郎氏を擧げて農場監視人とし該農場經營の事を一任せり、於此東條氏は德島縣郡賀、勝浦、海部の三郡にて六十一戸の小作人を募集し、三十年四月に第一着の移住を爲さしめたり、而して其當初の農業方法は一戸に對し四町歩乃至五町歩を配當し、樹木は伐木後窓鍬、平鍬を以て耕耘し、草原は馬耕を以て開墾せしめ以て一戸に付き約一町五反歩を程度として播種せしめたり、斯の如くにして漸次其歩を進め明治三十九年三月に至り成墾反別千八十七町一反三畝歩の付與を受けたり、尚同三十八年九月に至り農場發展の一着歩として坂東勘五郎氏外四名の外更に木村秀興、木村市太郎、東條儀三郎氏を加へ都合八氏を以て合名會社利別農場と改稱し、同時に農業部、商業部を設置し其他農業設備を完全せしめ小作人に對する總ての利便を與ふることなせり、小作人は三十年度に六十一戸、三十一年度に六十五戸、を募集し竟に今日に於ては二百二十六戸に達せり、而して創始當初の作付反別は八十町三反五畝八歩なりしもの漸次發達するに伴ひ十二箇年以後の四十一年度の作付反別は實に六百七十五町五畝十歩に達しつゝあり、以て如何に進歩發達の速かなるかを曉知するに足らむ、而して其重要作付農產物は黑白大豆及小豆にして一箇年の平均產額は一萬千二百餘石、其價格六萬千六百餘圓なりとす、附近の土地は概ね肥沃にして且つ頗る水田に好適し、上川地方に匹敵せる模範水田地として發現するに至るべし、而して來る四十四年度を以て愈々水田開發に着手の豫定なるのみならず、停車場を西方に距る約一里ピランベツ原野の五千町歩は已に解除となり移住民は續々來住しつゝあり、尚十弗原野の二千町歩も解除となれるを以て移住者の數頓に增加しつゝあり、此等の方面に於ける土地の開發農業の進歩に伴ひ勇足停車場は之れ等農產物の集中地として殷賑を極むるに至るや必せり。

尚同農場の理事たる東條儀三郎氏は馬匹改良の目的を以て資本金三萬圓にて牧場事業の獨立經營を開始し、目下其面積約八百餘町歩に涉り頗る優秀なる馬匹の產出を謀りつゝあり。

●本別驛

本驛は同國中川郡本別村にあり、池田、淦別兩驛

鐵道
汽船
貨物
取扱
新津運送店
網走線本別停車場構内
内國通運株式會社
本別取引店

の網走線新開通の各驛中に於ける最も繁盛なる農村にして、東北は釧路、北見の兩國に接し、西南は音更、凋寒、生剛の諸村に境す、地勢漸を以て降り中央に一大河あり利別川と云ふ、本別にピリベツ、センピリ、シオホロ、トプシ、の諸川之に注ぐ、本流は西南に流れ凋寒村字利別太に至り十勝川に合す、土地概ね肥沃にして耕作に便なり、昔時は舊土人の本別、押帶の河畔に居を占め居たりしも現時は其人口僅少にして唯だ僅かに其散在を見るのみ、本村は明治二十九年に至り押帶、勇足、幌益、嫌侶、本別村の一部に區劃設定せられ三十年に貸付せらる、依つて頓に移住者增加し遂に今日の殷賑を極むるに至れるなり、三十九年に至りて池田、網走間の鐵道布設工事起工せらるゝに至りて俄に移住者增加し目下本村の戶數八百七十三人口四千四百六十九人に達せり。

工業 鱗寸軸木製造所二箇所あり、停車場を東方に距る約三里半に阿部關太郎なる人の經營にて去四十二年より金鑛採掘中なるものありと云ふ。

礦泉 市街を距る五丁永井溫泉あり、本別村字メトーに礦質頗る良好なる沸泉あり市街を距る約十里交通不便なるも兩三年間に道路竣成の曉は浴客の便を得べし。

木材 木材は頗る豐富にして一箇年の產出は二萬二千八百七十二尺〆此價格五千百廿餘圓、外に枕木五萬挺此價格一萬二千五百餘圓なり、鐵道開通後に於ては夫れ等の產額則增するや明かなり。

官公衙 郵便局、村役場、巡査駐在所、尋常高等小學校等あり、寺院は密嚴寺（眞言宗）外に說教所三箇所あり。

醫院 中島岩吉氏の經營に係る中島醫院あり

新津運送店 停車場前に新津德松氏の同運送店あり、氏は早く本村附近の開拓に盡心し經營慘澹現時本村の開發は實に氏の功勞を多とせざるべから

す、十數年間一日の如く村總代の公職を襲ひ公共事業に盡瘁せり道會議員たる阿兄新津繁松氏と共に其令名を博しつゝあり、以て其運送業に於ける信用と敏活の取扱振りとは推知するに足るべし。

●旅館 丸竹印前橋旅館、山形屋等最も名あり

●仙美里驛

本驛は同國同郡本別村字仙美里にあり、農業適地にして未だ人口稀少なるも鐵道開通後漸次移住民の增加すべきものとす、比年蟲害に苦み農民大に疲弊せるを以て函館の小川幸兵衛外二人は之が善後の一策として函館農場なるものを創立し、一方に於ては蟲害を防ぐの目的を以て、一方に於ては輪作奬勵の目的とを以て水力を利用し澱粉製造事業を起せり、而して其れに要する資本金は三萬圓にして其作付反別百余町歩なり、漸次斯業の發達に伴ひ三百町歩までに擴張の見込なりと云ふ。

●足寄驛

本驛は同國同郡同村字足寄にあり、本村は利別川の東南方足寄川を以て十勝、釧路の國境となす、農業、牧畜、林產、礦物に豐富なるを以て將來發達の程度は蓋し計るべからざるものあり、就中地味頗る肥沃にして十勝、釧路兩國中有數の農業適地たり、移住者の重なる府縣は石川、福島、廣島、靑森、岐阜等にして、明治八年舊釧路郡役所に於て土人をして農業に就業せしめ以て奬勵に努めたるを以て比較的農事の發展進歩を促したるの觀あり、而して同卅年に至り弘前の人溝江定一氏奮然始めて此地に移住し幾多の苦辛と勞苦に鬪ひ開拓上鮮からざる功蹟を擧げ、亞で各府縣の移住者招來の時機を與へ以て今日の如き開發の盛況を促

すに至りたるものなり。

●牧場　として重もなるものは澁田、村木、佐野、岡、棚澤、細川、大野等なりとす。

●官公衙　白糠軍馬補充所足寄出張所、村役場、林務駐在處、巡査駐在所、郵便局、足寄郡各村農會等あり。

●工業　としては製釉所一箇處あり。

●礦物　足寄川の沿岸に石油礦あり札幌の某氏が採掘許可を受け居れるを以て近き將來に於て斯業開始さるべく、尙停車場を距る約三里足寄川の支流「イナウシ」川の沿岸は石炭礦に富み其炭質亦頗る良好なりと云ふ、又此地は國道第二期線にして近き將來に於て白糠驛までの道路竣成するに至らば、交通上至便となり開發上及生產上に於て大ひに見るべきものあるに至らむ。

●運送店　は丸忠印新運送店あり、

●新妻醫院　院長は新妻直俊氏老練を以て名あり

●野中驛

本驛は釧路國足寄郡利別村にあり、牧場地を以て名あり、

●淫別驛

本驛は同國同郡淫別村にあり、此地は目下戶數六十、人口三百餘に過ぎざる山間の一小部落にして鐵道の開通に依て池田、網走間の中間驛たり、從來は牧場好適の地なりと雖も農業未だ進まず、字斗滿原野に開牧場あるに過ぎず農業の如き僅に自家の食用に供するに過ぎず、近き將來に於て最足寄原野、「ラワンニ」兩原野に達する國道の連絡と共に漸次兩原野の開發するに至らば、地味頗る豐饒なるを以て其生產の增加に伴ひ本驛は其集散地として一生面を發揮するや必せり、尙停車場を西方に距る一哩に斗滿官林あり、其廣袤實に十勝、釧路、北見の三箇國に跨りて針葉樹材に富む、曩に王寺製紙株式會社が一箇年十二萬尺〆宛の特買契約を爲すの說あり、今本道に於ける二大製紙會社たる王寺、富士の兩會社が年々十二萬尺〆つゝの特買契約を爲すものとするも優に四十箇年間繼續伐採すべき餘裕あり、此他市街を距る一哩足寄郡「ラソウシ」官林の如き四百萬尺〆の木材あり、斯の如き無盡藏の森林を有するを以て將來は此地附近は木材の產出額多額に達するの時機に遭逢するや疑なきなり、其他硫黃の特產地を以て有名なる阿寒に達すべき所謂阿寒鐵道の連絡が、美幌、淫別何れの地に決するや知るべからずと雖も、若し淫別に連絡するものとせば最足寄「ラワン」兩原野の開發と共に實に本驛は百貨の集散呑吐地として意外なる繁盛の地と轉化するに至るべきなり。

●旅館　停車場前に桁印井上、丸文印斗滿館奈良岡等あり。

●厚岸町

●位置　厚岸町は釧路國厚岸郡厚岸灣の東南端に位したる一級町村制施行の市街にして戶數一千三百餘山水明媚風景絕佳の地なり、凹凸起伏同町を圍繞する山丘の綠翠、奇巖怪石よりなれる灣內の偉觀は天下の勝と謂ふ可く人をして雄大の念を起さしむ實に同町の住民は斯る秀靈なる自然に養はれつゝあるなり。

●地理　同町は西南太平洋に面し海路千島、北見、根室、霧多布、釧路、函館、東京、名古屋、大阪、神戶、馬關に便船あり北東には尾幌、妹別、別寒邊牛、太田、チャラカベツ、熊牛等の原野あり物資の供給呑吐は一に同町による、陸路西は釧路に至りて釧路鐵道線と連絡して帶廣、札幌、小樽に

至り北は標茶を經て網走に達し北東は根室の別海へ行くの道路開鑿せられんとす東北は霧多布、落石を經て根室に達するの便あり同地間は本道官鐵第一期線に算られあるものにして其起工も近く之を見るを得べし。

●沿革　同町は往昔(アイヌ)人種の僅に棲息し居たりしがシャモの來り住みしは元祿十年の交、出羽の人佐藤不味軒等の來り開墾に從事せしを初とす同氏等數人は釧路へ來り阿寒岳の麓セオナムの地(同町大字眞龍邊乎)に入りて穀菜を播種し又其南方トクノクの地(同町の東北方弁渡より筑紫懸に至る間乎)に移り田畑を設け耕作する事三年初年には一畝の田より籾一斗九升二年目に二斗六升三年目に三斗二升を收穫し其他畑作も亦皆成熟せり是れ當に同郡農事の開祖なるのみならず實に蝦夷開墾の主唱なり同じく寛永年間同町は白糠、久寄里(即ち今の釧路)と共に北海道下場所の三場所に區分せられ厚岸場所の境界は今の昆布森アポロベツより今の根室國落石村チョウブシに至る別に霧多布場所を置て根室及千島のアイヌと交易を爲す、次で同町は霧多布場所と共に松前藩主の直領となる寛政年間國後のアイヌ亂を起し釧路國のアイヌ之に黨する者頗る多く勢甚だ猖獗を極ひ獨り同町の酋長イコトイ等は部下を率ゐて藩兵の來るに會し叛徒を誘降す、是より先き同町の請負人飛驒屋久兵衛はアイヌの撫育其宜きを得ざるの故を以て免せられ村山傳兵衛之に代りて請負人たり、其頃露國人は厚岸及び霧多布沿岸の測量に從事し或は上陸する者頻々然れども是を制するの防備甚だ不完全なりしかが幕府は厚岸場所を直轄なし享和二年鎌倉の建長寺の住職文爺に命じて同町盤螺山に臨濟派の一寺を建立せしめ文化元年鶴運山國泰寺と稱す、爾來鎌倉五山派の僧侶を以て住職ならしめ今は京都南禪寺の別格寺に屬す當時

厚岸實業案內

次第不同

營業種目

海陸物產
米穀、雜貨商
漁網類

釧路國厚岸港若竹町

上田勘兵衛

電略（ウヘタ）又ハ（ウ）

營業種目

和洋金物類
度量衡器
建築金物請負

北海道釧路國厚岸港若竹町

㊀丸山藤吉商店

電略（〇ト）又ハ（〇）

和洋金物
銅鐵類販賣

同 松葉町六十二番地

㊀丸山支店

萬金物製造所

同 松葉町百十八番地

㊀丸山鐵工場

營業課目

和洋酒雜貨商
海産物肥料商
北寄牡蠣、鮭、鑵詰製造
煙草元賣捌厚岸支店

釧路國厚岸港
若竹町
同 灣月町
同 奔渡町

南海屋中野商店
電略（ナン）又ハ（ナ）
南海屋支店
南海屋支店

米穀、雜穀
諸雜貨
荒物商

厚岸港字松葉町
阪田治平

米雜穀、荒物、和洋砂糖
和洋小間物、文房具、陶器類
和洋酒鑵詰、履物類、藥種

厚岸港松葉町六一
近江屋號
加藤伊之吉

株式會社
根室銀行厚岸支店
本店 根室港
支店 釧路、厚岸、網走、帶廣、利別、浦河
根室銀行厚岸支店霧多布派出

委託賣買專業

海産肥料鹽乾魚類

一鮮魚海草魚油切身

荒雜酒後越前銘物貨

五

厚岸港若竹町

佐藤健吉

電略（一五）又ハ（一）

荒雜物貨商

二

厚岸港松葉町

大西屋商店

電略（〇二）又ハ（オ）

菅原事務所前の光景

土木建築請負業

木材販賣業

厚岸港奔渡

忠

菅原忠太郎

電略（スチ）又ハ（ス）

◎和洋菓子卸
◎洋酒小賣
◎鑵詰類商

宮

厚岸港灣月町
宮川商店
電略（ミヤカハ）又ハ（ミヤ）

○吳服反物
○和洋小間物
○荒物雜貨
△天狗燒酎一手販賣
△度量衡器販賣

ヤ

厚岸港灣月町
中川保平商店
電略（ナカヤス）又ハ（ホ）

造船業

小田榮次郎
（釧路國厚岸港若竹町）

厚岸港
劇場
壽座
座主
奥谷榮吉

歐米最新式撮影

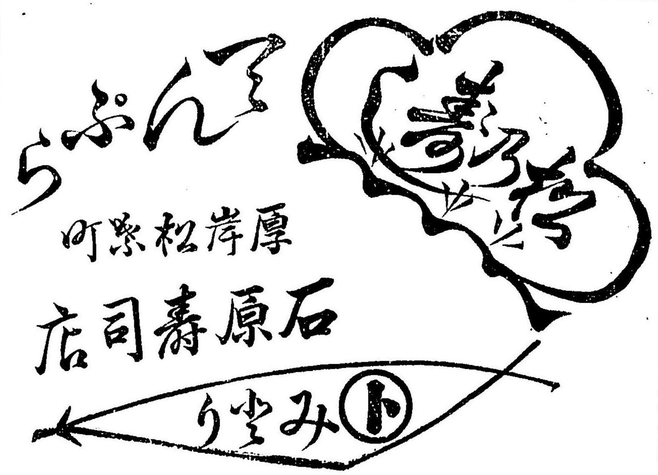
寫眞

一老練なる技師を特聘し最も遺憾なく寫眞術の妙技を發揮せしめ可申候
一名刺帖印紙寫眞、プロマイト、同引伸し、カーバン等各位の御望みに依り頗る精巧に調製可仕候

厚岸港松葉町
佐藤茂

北陽寫眞館

厚岸港松葉町
榮精美



○和洋小間物
○煙管莨入
○學校用品
○硝子器ランプ
○書籍雜誌類

厚岸港若竹町
高町澤商店
電略（マ）

▲北海道旅行案内第十版賣捌所

高旅
等館

△客室清潔
△取扱親切
△眺望絶佳
△宿料勉强

厚岸港灣月町
五味旅館

海陸物産
委托商
木材商

厚岸港灣月町
五味與惣兵衛
電略(五ミ)又ハ(五)

國泰寺は「ウス」の善光寺、「サマニ」の學樹院と共に東蝦夷の二寺の一にして宗教、教育、政事、軍事總ての命令を發し歩卒數百を有して西南襟裳岬より東北根室千島へ政令を布き恰も現時の臺灣總督府の如き統轄の權能を附與せられし寺院なりしと云ふ

産業 の重なるものは水産、木材、農業、牧畜等にして農業及び牧畜は未だ語るに足らざれども水産は稍發達して木材之れに次ぐものゝ如し、水産は鮭（漁具は曳網、建網、刺網、旋網による）氷下待網、鰐釣、餌流し網、昆布、雜魚漁業等なり、而して鮭は北産額頗る多く昆布及び氷下待網之に次ぐ亦同地は牡蠣の産地として有名なるも今は濫獲の結果産額頗に減少したり、左れば本年より人工孵化移殖の計畫を立て今や其歩を進めつゝあり。

▲鮭は大黒島と仙鳳趾崎との間より灣内へ群來る魚類を漁獲しつゝあるも沿岸に來遊する魚族漸く減少の傾きあるを以て將來は沖合旋網漁業の如き漁獲法に改善し之が發達を圖ることゝ

如し▲餌流し網は有望にして岡町床潭の金田氏は改良川崎船を造り相當の漁獲あるも土地の販路狹き故釧路市場を經て輸出しあり、▲木材はトド白楊樹等にして函館、京阪、上海、香港方面へ輸出する其高毎年十數萬石に達し而して内部に樹林頗る多く材料最も豐富なり▲農業は牧場適地としては厚岸郡に宏大の原野あるにもかゝはらず未だ草蒙に屬するもの多く只僅かに太田、尾幌、別寒邊牛の一部が漸く開墾に着手されつゝあるは奇なる現象なれども思ふに厚岸町民が水産の利に慣熟して農牧を顧みざると陸路交通不便の結果によるものと思惟す然れども農牧に適する廣原何時迄放擲せられんや思ふに數年ならずして米稻の跡を見開墾せられん事今より瞭々たり況や官鐵一期線全線の曉に於てをや。

●●●
村林農場　三十二年森格之助なる人百五十萬坪の

排下を受け鵡川水害地の住民六十戸を厚岸郡苫多村大字尾幌に移住せしめて農耕に從事せしむ、後ち三十四年に至り東京の人村林謙吉氏望を此地に嘲し森氏經營の農場を引受けたりしも、一箇年兩回の水害に逢ひ其土地肥沃優に一等地たるに耻ぢざるに不拘、移住民は爭ふて他地方へ轉住し一時廿八戸迄に其移住民を減せしめたり、於是村林氏鋭意率先して其水害の因起は尾幌川の溢水にあるを以て、排水の途を講究し水害を防ぐにあらざれば將來此附近の農業を發達し移住民を奬勵する能はずと決心し、尚厚岸に通ずる連絡道路を三十六年度に於て全都成功せしめたり斯の如くにして弘く移住民を奬勵し漸次耕農の業を進め、當今の農場面積二百萬坪に達せり、尚六十五萬坪の牧場營經を開始しつゝありて時現は戸數百二〇八戸人口一千二百人に達し將來益々人口增加の趨勢を示すの好況を呈せり、數年前の尾幌は廣漠たる原野なりしも今は千二百の人口を有する村落となり神社寺院の設立あり尚三千三百圓の資を投じて小學校を開設して兒童の教育に留意し其他醫師一旅舍二あり斯の如くにして住民自ら進んで治自の制を設け組合を十組とし一組毎に組長を置き、之れに三名の總代を設け住民自治の制を實現せしめつゝありて近き將來戸數五六百に達し二級町村制を施く迄に發達せしむる目的なりと云ふ、現時の耕作地總數三百七十町歩に達し、原野の總積面區劃地三百萬坪、未開地三百萬坪、牧場適地四百萬坪餘あり、牧場の重なるものは上野秀吉氏の六十萬坪、柳田藤吉氏の八百萬坪、谷氏の九十萬坪、村林氏の六十五萬坪等なりとす、農産物は水田は當時皆無なるも全然害水の根源を除去するに於ては何種を問はず收穫好適なり、目下釧路街道修理中なるを以て竣功の曉は釧路、厚岸間道十四里の距離は二里に縮小さるべし、

●●●●森林面積の如き千五百萬坪あり、函館其他の地方に輸出する木材は多く此森林より伐出せるものなり、同農場にては農業の發達は小作人を保護奬勵するにありとし小作人一戸に對し五町歩を割當て二箇年間は保護の制を取り三箇年目より出資費を返還するの規定を設けあり

●●●●尾幌川排水工事は一萬八千圓の工事費を要し四十年度に其工を起し四十二年一月之れが工成りたれば今後に於ける近附一圓の農業發達上に顯著なる實益を與ふるに至るべし。

●工業　は明治十二三年　交官營の牡蠣鑵詰所ありしも間もなく閉鎖され今は奔渡の宮城野製材所と眞龍の北海挽材會社の二箇所ありて各種の製材を爲し同町幷に函館に輸出一年の製材高約四萬石なりと云ふ。

●●●●●●●尾幌挽材合資會社　厚岸の坂田治平尾幌の村林謙吉兩氏外數名の合資組織に成る同會社は工場は村林農場敷地内に設け、十箇年繼續事業を以て積絶的挽材事業を經營するとし已に營業開始し盛んに輸出を謀りつゝありと云ふ、此種の事業の勃興は工業界に於て實に喜ぶべき現象なりとす。

●商業　取引先きは函館、東京、大阪、神戸、酒田土崎新潟等にして、海産物の如きは函館と最も密接の關係あり輸入品は重に函館によるも卸商に屬する者は産地直輸入なるを以て物價は割合に安價なり

●●●●●●●金融と交通機關　金融機關としては根室銀行同町支店あり三等郵便局の設けありて電報事務をも扱ふ局長は戸田與太郎氏なり。

●官公衙　區裁判所、警察分署、大黒島、燈臺、町役場等あり。

●●●●公設機關　厚岸水産、奔渡水産てふ兩漁業組合ありて水産物の改良及び奬勵に盡しつゝあり又在郷軍人團の設けありて常に軍事教育の復習を爲して一朝有事の日に備へんとしつゝあり其團長は豫備

少尉菊地若松氏なり。

●教育　明治七年國泰寺の住職梅谷某に托して讀書習字を授けしを濫觴となす同十二年小學校を設け次で今の尋常高等小學校となり實業補習科の設けありて九百餘の生徒を收容其他各部落に幾多の教育所の設けあり。

●神社佛閣　國泰寺（臨濟派）正行寺（東本願派）吉祥寺（禪宗）教雲寺（西本願派）淨土眞宗說教所、法華寺（日蓮宗）其他各部落に說教所あり。

●病院　町立として　厚岸病院あり、私立として最も經驗に富み頗る信用あるは前厚岸病院長たりし本多千之助氏の經營に係る本多醫院あり其他私立醫院三あり。

●重なる實業家　としては上田勘兵衛、中野米藏、宮城野勇次郎、長谷川末吉、中元寺豐、菊地若松森川與三郎、柿崎米藏、吉田重太郎、佐藤眞吉、山崎常吉、中川碧三郎、中川保平、五味與惣兵衛

坂田治平、加藤伊三吉、宮川直次郎、佐藤勇之助丸山藤吉、中原今朝一、高島清次郎、中野熊太郎の諸氏等とす、回漕業としては安保回漕店、山崎回漕店あり何れも取扱迅速叮嚀を以て信用あり。

●旅館　高等の旅館として信用あるは五味旅館とす客室の數多きと其備設の完全せると取扱の親切なると眺望の絶佳なるとに於て他に其比を見ず、之に亞ぐは金居旅館にして亦信用あり。

●劇場　壽座あり。

●浦河町

浦河町は全道一の產馬地を以て知らるる日高國浦河郡浦河にありて浦河支廳在地として又同國中に於ける中央都市として其繁榮亦國中に冠たり、今浦河町を紹介するに方て少しく日高國勢の一班をも紹介せざる可らず。

日高國は北海道の東南に位し、西は膽振國に接し、東北は十勝國に連り、南は太平洋に面し、北西の一部石狩國に堺す、地形は西北より東南に延長して海中に突出し其尖端を襟裳岬とす、面積三百十二方里、沿海線四十四里に亘り、氣候溫和にして積雪少なく海陸共に天然の物資に富み、陸にありては農耕、養蚕、牧畜に適し特に產馬の適地を以て稱せらる、森林は現に全地積の七分强を占め材積豐富を極め、又礦物、石材に富み其量積殆んど無限にして加ふるに河川多く水力利用の便自在なり、海にありては寒暖兩潮の魚族棲息し海藻亦豐饒にして古來三場所の一に居り沿海、沖合兩つながら漁收の利多し、斯く天惠を擅にするにも拘はらず外は世人の視線を脫し內は社會の進運に後れ空しく天產を鎖して貨源を開くに由なく萎靡不振の現況を呈しつゝある所以のものは、由來海陸交通の不便なると拓殖施設の惠澤周からざりしとに起因せずんばあらず、一朝交通機關備り之に伴ふ相當施設の途を講ずるに於ては土地開け戶口增殖し各種の產業は蔚然として勃興するに至るや必せり、而して日高國の總面積は實に三百十二方里にして之を反別に換算せば四十八萬六千七百二十五町の廣袤を有せり、尤も牧場山林の多き全面積の七分强を占むるを以て面積の割合に人口を容るゝこと能はずと雖も、農業は一般に耕作、牧畜を兼ね混合農業を主とするを以て耕地と牧場とを併せ一戶平均所要面積十町歩となし配當せば將來の耕作及牧場面積に對し二萬四千戶、人口十二萬人を容るゝを得べく、之に漁業戶數沿海一里に付平均七十戶として三千八百戶、人口一萬五千四百人、工業及林業戶數二千戶、人口一萬人とし以上に對する商業其他の戶數一割五分と豫想する時は、其戶數四千三百六十二戶、人口二萬千八十一人にして通計戶數三萬三千四百四十二戶、人口十六萬七

千二百十人は優に之を收容するに足るべし、之を總面積に配當する時は一方里僅に五百二十五人にして本邦各府縣中人口の最も稀薄なる岩手縣の一方里人口の三分の二弱に當らず、日高國の開途亦多難且遼遠と云ふべきなり。

●●●●●●●●浦河町の位置と沿革　本町は東、樣似郡に連り、西、三石郡に接し、廣袤東西十里九十丁餘、南北九里十八丁餘、總面積四十五方里餘にして地形北方に廣く、南方に狹し、一郡を分けて浦河、後精、向別、井寒臺、後邊戸、荻伏、姉茶、野深、西舍、杵臼、幌別の十一箇村とす、野深、姉茶、荻伏、杵臼、幌別の十一箇村とす、野深、姉茶、荻伏、は郡の西方にあり、後精、後邊戸、井寒臺、は其東西に併列し、向別は向別川を距てゝ當町の西方に接し、西舍、杵臼、幌別は幌別川を挾て東隅に位し、地味何れも肥沃農耕に適し又牧畜に適す、西舍村の如き日高種馬牧場所在地として有名なる地たり、（日高種馬牧場の事項に詳述しあり）其他

營業種目

米穀雜貨
荒物鹽
煙草太物類
海陸物産委托賣買

日高國浦河町
二
西口右平商店
電略（〇二）又八（二）

の牧場何れも名馬を產し我邦到る所の競馬會に於て優勝の榮譽を贏ち得るもの何れも咸な此方面の產馬なりとす、沿海線は僅に四里十八町に過ぎざるも鮪、鯉の如き漁利多く漁獲時期には盛んに鯉節の製造を爲し東京其他の各地へ輸出するの額亦少しとせず、明治三十五年四月二級村制を施かるゝに當り、後精、向別、井寒臺の三箇村を浦河村に合併して浦河町とし、後邊戸、姉茶、野深の三箇村を荻伏村に合併し幌別村を兩分して杵臼、西舍の一村に合併せり、全郡の戸數千三百七十餘戸、人口八千四百餘人、舊土人戸數二百三十餘戸人口八百三十餘人を算す、當町は日高國中に於ける物資の集散地たるのみならず浦河港灣の比較的優秀なるの一事は以て益々浦河を發達せしめつゝあるの一因と爲さゝるべからず、

●●●●●●官公衙及諸機關　浦河支廳、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、町村役場、小學校、日高國書館、浦河公友會、浦河商業組合、日高實業合資會社、日高教育會、農、牧、商經營の赤心株式會社は荻伏村字元浦河に其商業部は浦河にあり。產牛馬組合聯合會、水產組合、漁業組合、郡村農會等あり、金融機關としては根室銀行浦河支店あり、其他劇場一箇所、寺院數箇寺あり。

●●●●●●日高種馬牧場　本牧場は馬政局の所管にして明治四十年六月十九日の設置に係り、地域は浦河郡西舍村を中間となし杵臼、向別、の兩村に跨り、面積九千九百七十町歩餘を有し、北に日高山脈を負ひ、南は太平洋に面し北より南に連亘せる峯巒左右より西舍、杵臼の平地を擁し、幌別川其中央を貫流し地味頗る豐饒なり、廳舍及厩舍は字榊臺なる海拔八十尺の高地にあり、現に洋種々牡馬十二頭、蒔殖用牝馬七十九頭、使役馬十九頭あり、其飼育管理の方法及教調人一般の模範となり又餘勢の種付を民間に許可せるを以て我邦產馬改良上、

米穀　荒物　雑貨
旅　鹽　煙草　菓子類
銘酒菊泉特約店
仁木島恒吉
日高種馬牧場
御用達
館
土木建築請負業

日高國浦河郡西舍村
電略（ヤマニ）又（ハ）（二）

に及ぼす効果多大なるを知るべし、現場長は斯界に於て辣腕の聞へ高き水原勝之助氏なり。

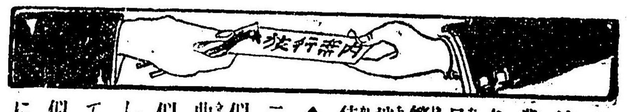
●旅館　日高種馬牧場所在地たる西舍村には仁木島旅館あり乃ち仁木島恒吉氏の經營にして雅實なる旅館とす

●醫院　山田醫院（院長山田富太郎氏）三澤醫院（院長三澤三代三郎氏）等ありて何れも老練の聞えあり。

●旅館及料理店　浦河港に總ての設備に於て清潔を本旨とし宿料の旅價と親切なる取扱振りの宜い旅館はと問はゞ第一に松月旅館に指を屈すべきは一度同館に宿泊したる旅客の認むる所なるべし、其他秋田旅館、京谷旅館奥山旅館の如き之れに劣らぬ信用ある好旅館なり、料理店としては高砂、竹川亭、竹の家等あり、

▲幌泉　日高國の最東部に位せる幌泉郡幌泉は北方は十勝國及樣似郡に界し、東西南の三面は海中に突出す、幌泉は幌泉郡近呼、笛舞、歌別、歌碑、油駒、の各村中の最も繁盛なる地なり、幌泉は漁業の地にして其開くるや頗る舊く其繁榮浦河に亞ぐ、幌泉灣は其形甚だ小にして大船を泊するに足らずと雖も海産富饒なるが故に函館との航通頻繁なり、土地は概ね瘠鹵たる高原性にして耕作の地最も少しと雖も冬期は積雪稀少にして笹の發生佳良なるを以て牛馬を放牧するに適せりと云ふ。

▲樣似　西北は鵜苦川を以て浦河郡に界し東南は二雁川を隔てゝ幌泉郡に接し西南は海に臨み、樣似灣は灣内深くして鼠岩海中に突出して東西に灣曲し船舶を泊し風波を避るに便なり、樣似嶽は樣似郡の中央に峙ち支脈四方に蟠蜒して平地甚だ少し、樣似川の沿岸は平坦にして殆んど五里に亘りて墾成地多し、樣似村字「ウンベ」に金鑛あり又冬似の海岸に砂金を産し、樣似より約四哩半新樣似に水銀鑛あり前田某の發見にして近き將來に事業開始の筈にして目下計畫中なり、其他金鑛に頗る富み其數二十鑛區を以て數ふるに至れり、尚海産物の最近調査に依れる産額は昆布五千石此價格三萬五千圓、鰊千三百石此價格三萬九千圓、鰯二千五百石此價格二萬五千餘圓、鮭二千石此價格三萬圓にして五箇年間に於ける其一箇年平均産額なり、依之も樣似の海産に富めるを知るべし、其他木材、農産等の産額少しとせず樣似は最も奇き年代より漁業に從事せるの事蹟あり往古は此附近は松前藩支配の下に土人部落の散在せるのみ、享保年間會々陸奥國下北郡大畑の三上金太郎なる人十六歳にして土人の通譯を兼て此地に來り漁業に從事したることあり、明治四年に至りて三上幸助なる人亞で此地に於て漁業に從事し後ち同年其實兄兼太郎、矢本熊五郎、嵯峨龍八等の人續々來住し漁業に從事し以て今日の繁盛を致せるものにして同三十九年に至り二級村制を施かるゝに至れり、



旅館、回漕店　此地と縁故深き三上重助氏の經營にして旅館、漁業、回漕業を兼ね最も信用と敏活の取扱ひを以て顧客の信用深し、其他漁業家としては矢本貞吉氏有志家として南伊之松、高尾佐之治等諸氏とす、其他片倉京佐氏の片倉醫院ありて、衛生設備は頗る完備せり、

▲**三石**　三石郡三石は南は海に面し東は荻伏澤を隔てゝ浦河郡に界し、西北は布辻川及「シヤマシキイワ」山脈を限りて靜内郡に接す、沿海港灣と稱すべき處なしと雖ども汽船は常に碇舶し函館、幌泉間を回航せり、邊訪、幌毛本桐、歌笛の各村は地味瘠瘦にして其原野數里に亘り又能く良馬を産す、海中には岩礁散點して頗る介藻に富む、醫院は川橋醫院、廣田醫院あり、商店の重なるは出口、坂東、山口、小山田、村田の各商店あり漁業は小林重吉氏あり其他旅館は丸一ス印小林悅太郎は旅館と驛遞取扱を爲して旅客の便を計れり、

▲**下々方**　下々方は靜内郡中最も繁榮を極むる物貨の集散地として日高國中浦河、幌泉に亞ぐ小都會にして其附近の農村亦何れも地味豐饒にして產額頗る多し、靜内郡は西は新冠郡に隣り東は三石郡に界す東西十一里二十八町南北十一里廿町下々方、中下方、上下方、目名、遠佛、市父、薛別、農家及碧蘂、藥退川の兩岸に沿て隣列し捫別、婦蠻、佐妻は捫別川畔にありて下々方、捫別は共に海岸に接す、遠別、音江の二村は布辻川沿岸に點散し有良、春立の兩村は海濱に臨めり、有良村の奥に鑛泉あり染退川上流二股以北は曠原の地少なしと雖も其以南は沿岸一帶平坦にして田圃相連ること殆んど三里餘、其西南は新冠御料牧場にして新冠郡に連續せり、捫別、布辻二川の沿岸は平野連續して二里餘に亘り稼穡に好適せり。

有聲館の溫泉　下々方より一里半捫別より一里靜内郡有良村の山間幽邃閑雅の地に有勢内溫泉あり有良村の海濱を距る約八丁道路平坦にして車馬の便頗る宜し、其溫泉旅館を有聲館と云ふ其發見及經營者は下々方の有力者金子忠藏氏にして、背に山を負ひ前に海を眺み其風光絕佳其家屋亦瀟洒を極む四季を問はず一遊の價値あり、而して其泉質は鹹性鹽類泉にして胃弱、貧血性、僂痲質私性諸症、慢性皮膚病、神經機能衰弱性、婦人生殖器病等に特効あり故に四時浴客絕えずと云ふ。

新冠御料牧場　同牧場は日高郡靜内郡下々方村新冠にあり、其地勢三面山を負ひ南西海に面し廣袤約四里に亘る其領域頗る廣大にして原野あり丘陵あり樹林あり、數條の河川其域内に橫り靑草鬱茂し土石淸腴嚴冬の候と雖も氣候溫和積雪深からず、恐く泰西に求むるも多く讓らざる形勝と好適地たるとを兼有せる我邦無比の最大牧場と謂つべきなり、明治五年此地をトし牧畜事業を創始せしも其當時は規模小にして單に牧馬の業を經營し開拓使之を管せり、後ち農商務省に移され同十六年再轉して帝室の御有となり、同二十一年十一月主馬寮の主管に屬し以て今日に至る、主馬寮所管以來地積を擴大し現に三萬三千二百町步餘あり、而して牧畜事業の目的たるや馬匹の改良、耕耘事業及林業の三者にあり、馬匹改良は元來北海道產として土地氣候に適する良種の良を存し其未だ及ばざるを補ふ所以にして、之を補ふには泰西良種を輸入し繁殖の力を以て逐次步を體格稟性の上に進め、吾邦特種の優等高價なる馬匹を得以て國益の基を開かざるべからず、耕耘事業は蔬菜及牧草を收穫して之を販出するに非ずして佳良の收穫を優等高價なる馬匹の需用に供するにあり、乃ち擧げて之を其繁殖發育の力を熾んにして遺憾なからしむるは同牧場の根本的方針なりとす、又林業にありては克く風防の實果を擧げ傍ら在來の雜木は之を伐採し代ふるに有益なる良樹を種植せしめ將來國益

の一に數ふる方針なりと云ふ、同牧場が馬匹の改良に二十有餘年鋭意經營の結果馬匹の品位大に向上し其數の繁殖亦觀るべきものあるに至りしも、尚同牧場は僅に二千頭を收するに足るを以て目下着々所期の進路を踐みつゝあり、耕耘事業の方法亦舊慣を改め作物を精選し泰西新式機械を運用して人力を省き佳良なる穀菜及牧草を收穫し來れり、右二者の効果に因り相應の利益を收得し明治二十六年以來已に同場の經濟は全く獨立維持の實を擧げたるが如き歴代の同牧場長及現牧場長たる山下盛治氏、技師長水町熊太氏等の如き斯界に於ける辣腕家諸士の鞅掌努力の功績を多とせざるべからず。

官公衙及重なる商店 下々方市街には郵便局、警察分署、村役場、産牛馬組合、靜内回漕合資會社（代表者加地幸次郎氏）、靜内酒造株式會社等あり、重もなる信用ある商店は竹一商店加地幸次郎、金子忠藏商店、瀬川芳藏商店、木村外吉商店、本庄康平商店、藤原商店等の諸氏なりとす、牧畜家として有名なるは曾根琴一氏あり、隣院は渡邊醫院あり院長渡邊柳氏最も老練名國手の名高し。

旅館 大三印藤原旅館は日高沿岸中稀に見る好旅館にして客室を增築し其設備の完全せると取扱の叮嚀なるは他に其比なし其に高等旅館たるの名に背かず實に旅客の便益此上なし。

▲**門別、佐瑠太** 沙流郡は產馬地として夙に世に知らるゝのみならず、又アイヌの棲息地として有名なる地たり、同郡は日高國に於ける最西端にありて山脈一帶其西北を繞り以て膽振國の勇拂、石狩國の空知二郡に境し、東は厚別川を劃して新冠郡に接し南方太平洋に瀕す廣十六里十八町袤十六里十一町あり、佐瑠太、富仁家、平賀、荷菜、平取、二風谷、荷負、長知内、幌去の諸村は皆沙流川の兩岸に沿て點々村落をなす、其氣別は其支流額平

川の東岸にあり紫雲古津、荷菜摘の二村は平賀村の西北に隣り門別、波恵、慶能舞、賀張の四村は各河川を夾みて海岸に隣列し、厚別川の右岸に厚別菜實の二村あり、厚別は海に瀕し菜實は川の上流にあり、而して舊土人の部落は各村落の間に介在して甚だ多し、平取村は蝦夷創業の地にして山腹に義經神社あり一帶の地勢山岳多く丘陵起伏して曠原平野を見ずと雖も河畔の地は大概小担にして耕耘に宜く且水田に適する處多く、丘陵は最も牧畜に適するが故に夙に產馬の地として世に鳴れる所以なり、門別は其中央の繁榮なる市街にして佐瑠太は其西端の市街たり門別にて畜產家として有名なる岩根靜一、塚本博愛二氏の如き此地にあつて畜產界の牛耳を把り其改良上に貢献する所甚だ鮮しとせず、此他尙畜產家としては平取村の工藤悌三農業家としては平賀村の小林善助實業家としては佐瑠太村の荻野彌助等の諸氏何れも斯界

呉服 太物 荒物
小間物 和洋金物類 商

酒造業

日高國沙流郡佐瑠太
商號 荻野商店
電略（ヲキ）又ハ（ヲ）

に名あり、刀圭界にては佐瑠太の橋本醫院長たる橋本文次郎氏技術經驗兼備の老練家を以て信用を博しつゝあり。

●義經神社　同神社は日高國沙流郡平取村にあり源九郎判官義經を祈る、古昔は沙流川西岸の篠臺にあり後年水害に罹り同村北端山上に遷座す、古來舊土人の尊崇奉祀する處なるも僅に木幣を奉するのみなりしが享和二年夏幕臣近藤守重、比企可滿等廟を建て之を祭らしむ、亞て寛政十一年四月江戸の大佛工法橋善啓をして丈一尺一寸甲冑を穿ち弓を横たへ虎皮を敷き岩頭に蹲したるの木像を彫刻せしめて之を安置す、夫れ源義經奥州より遁れて本道に入れりと云ふは史乘の明かに徵すべきものなきを以て眞僞固より保し難しと雖も、本道到る所に源義經及從者辨慶に關する傳說古跡多く必ずしも一嘱に附すべからざるものゝ如し、而して沙流郡は舊土人の首府たりしを以て遂に鎭坐の地となりしものか、宜なり土人今に至りて其祭を絶たず毎年八月十五日必ず神事を執行す、寔に是れ本道唯一の舊蹟にして實に土人慰撫の好資料たり、且近年交通稍〻便を得てより内外人の來り賽するもの頗る多し畏くも明治十七年八月故小松宮彰仁親王殿下の臺臨あり、後ち明治三十九年北海道廳長官の指定に因り爾來公費を以て神饌幣帛料を供進するに至れりと云ふ、現時の社殿は近時有志者の造營に係り其神域の風致と美觀に一府を加へ永く古跡を保存し神德を宣揚するの旨趣に適ふものと謂ふべし。

●土人の基督教信者　明治十二年英人ジョン、バチラー氏始めて平取村に來りて布教をなし爾來金錢物品を惠與して大に舊土人の教化に勉む、二十七年に至つて會堂を同村上平取に建て傳導師を置き日曜日毎に說教をなし傍ら羅馬字日本讀書、習字、算術等を授く目下英人ブラエアンド孃あり能く信徒を親愛す信徒は沙流郡舊土人部落に多し。

●旅館　佐瑠太市街の荒井旅館は此地の開拓者たる荒井重松氏其館主にして沼之端（雷蘭線）停車場前に其支店ありて客室其他の設備に遺憾なからしめ且つ宿料の低廉なると待遇の親切なるとを以て旅客の信用ありと云ふ。鵡川市街地に山木印木村旅館あり同館は先年韓太子本道御觀遊の折宿泊處に充用されたる有名なる高等旅館なり其他同地に尙松本旅館あり

近き將來に於て日勝線敷設若くは輕便式鐵道何れか布設の曉は之れに伴ふ相當施設の途を講するに於ては土地開け人口增殖し各種產業は蔚然として勃興し、社會の進運に後れたりし日高國も貨原を開くに至り本道の開發上偉大なる利益あるに至るべきなり。

太物　雜貨　米穀
和洋小間物　商

日高國沙流郡門別村
飯田榮三郎商店
電略（イ）又　八（ヤ）

弘

繩莚叺其他
藁工品一切
米雜穀海産
物委托販賣

青森市停車場前(古川)
津輕物産株式會社
電話(一四九)電略(ヒロ)又ハ(ヒ)

函館仲濱町
津輕物産株式會社函館支店
電話(二一七五)電略(ヒロ)又ハ(ヒ)

南津輕郡本町村
津輕物産株式會社買入所
電略(ヒロ)又ハ(ヒ)

青森

鐵道指定
鹽谷旅館
本店●濱町貳丁目(市の中央)電話(五十四番)
支店●汽車汽船運絡中央●電話(五十五番)

●青森市

●位置● 青森市は陸奥國の東北端に位し東方は太平洋を受け西方は渺々たる日本海に臨み南方は陸中羽後の兩國に接し北方は津輕海峽を隔てゝ北海道に到るの咽喉たり東西五十餘里南北四十三里餘面積八百七十一方里餘を有せる東北屈指の都市たり

●沿革● 維新以後に於ける沿革は明治四年七月弘前縣、黑石縣、七戸縣、斗南縣、の四縣を置く何れも舊津輕藩の所領地に基きたるものたり、而して同年九月に至り右の五縣を併合して弘前縣と改め中央政廳を現今の青森市に存置し尋て同月更に青森縣と改稱す、其當時北海道の福山地方幷に陸奥國二戸郡等何れも青森縣の所管たりしに明治九年に至り分割して福山を閉拓使に二戸郡を岩手縣に屬せしめたり、方今青森縣の管轄は弘前市、青森市、東西中南北津輕、上北、下北、三戸、二市九郡則ち八ヶ町百六十一ヶ村なりとす、晩近青森市に於ける經濟界に著しき膨脹の機運を與へ日進月歩の勢を以て人口增加し現時の人口實に五萬三千餘戸數一萬千餘を算するの大都市たるに至り而かも日露戰役後の今日に於ては青森港を以て軍港と爲し北海道及び樺太の生産界の發達進歩に伴ひ層々青森市をして樞要地たらしむるの關係あるを以て近き將來に於ける青森市の發展賑盛の勢ひは蓋し測るべからざるものあるに至らん。

●市街の概況● 市街は東西に長く南北に狹く安方町、新安方町、濱町、蜆貝町、新蜆貝町、新濱町、大町、繁町、寶町、米町、博勞町、新町、寺町、銀治町、大工町、松森町、堤町、柳町、榮町、浦町、浪打、長島、古川の二十三ヶ町より成り東北鐵道最北端の停車場は安方町にありて陸羽鐵道線と連絡す、濱町安方町蜆貝町は海岸に沿ひ旅人宿、回漕店、問屋等多し、長島町には青森縣廳、警察本部、郵

青森
鹽谷旅館
鐵道指定
本店●濱町貳丁目（市の中央）電話（五十四番）
支店●汽車汽船連絡中央●電話（五十五番）

役所、第三中學校、裁判所、警察署、巡査教習所、物産陳列所、議事堂、東奥日報、陸奥日報等あり、大町に貯蓄銀行、安田銀行、五十九銀行、農工銀行等あり、濱町三丁目に郵便電信局、弘前銀行支店、商業銀行、大林區署あり、浦町に師範學校あり、安方町、濱町、米町等は熱鬧の街衢にして大廈高樓軒を列ねて鱗次せり、遊廓は堤川の河流を距て、通稱柳原にあり三桝樓、米山樓、花月樓、荒濟、北越樓等何れも大雄なり柳原の中天に高く聳ゆる三層の高樓は三桝樓にして實に柳原遊廓の一名物と云ふも過言にあらざるなり、安方町に日本郵船株式會社の支店あり、米町に憲兵屯所、寺町に蓮華寺、蓮心寺、正覺寺、常光寺等の古刹あり、劇場は鹽町一丁目にあり、市役所は米町三丁にあり。

●商況　本市は青森縣下商業の中樞地にして弘前、八戸、黑岩、三戸、田名部幷に北海道、樺太、各地との商取引頗る頻繁なるを以て金融亦た隨て盛大にして金融機關には貯蓄銀行、五十九銀行、安田銀行、商業銀行、弘前銀行支店、農工銀行等あり、本市より北海道、樺太其他の各府縣に輸出する重要なる商品は米、大豆、味噌、筵繩、昆布、花菜、醬油、飽、鰒、鰯、鯡搾粕、檜材、鷄卵、林檎等にして其輸出先は東京を以て其最たる顧客地とし北海道樺太へは主として穀類を輸出す、輸入商品の供給地は重に横濱、東京、大阪、新潟、函館等にして魚類、石油、織物、砂糖、煙草、陶器、食鹽、茶其他雜貨等を以て重なる輸入品とす。

●遊覽案内　●合浦公園　堤川に架せる所の堤橋を渡り、辿る事數丁老松欝々たるの邊、池水あり亭榭あり築山あり左に青森灣を控へ右に八甲田山の高嶺を拄ひるの所之れ則ち合浦公園なり、若し夫夏季杖を此公園に曳き砂白く風涼しき濱邊に點々たる白帆に向へば知す清風袖を吹きて襟に入り涼味亦た一段の深きを加る者あらん●善知鳥神社　は

青森
鹽谷旅館
鐵道指定
本店●濱町貳丁目（市の中央）電話（五十四番）
支店●汽車汽船連絡中央●電話（五十五番）

安方町にありて青森市の總鎮守として有名なるものなり古來他國の人此地に來るや先づ此社に詣づ此社の由來は往昔嗚呼中納言安方卿勅勘を蒙り東奥に配流せられ外ヶ濱に來り此所に止りて死せりと云ふ此社は則ち其人の靈を祀りしものなりと云ふ●諏訪神社　は柴町の南方堤川の東岸にあり、社殿宏大ならざるも境内高燥にして頗る風光に富む●香取神社　は柳町にあり合浦公園に亞ぐの市園地にして炎暑の候避暑に適す●淺虫温泉は青森縣下に有名なる浴場にして當市を距る九哩の東方にあり淺虫驛にて下車すべく而して同温泉場は東西南の三方山を負ひ北は陸奥灣に接し鴎島湯の島生子島等の海上に浮ぶありて眺望頗る佳絶の海岸にあり東北の須磨の浦と稱すべく、工業として有名なるものは合名會社淺虫製鹽所なり旅館の重なるは椿ホテル、蛯名、東奥館、松月館、淺虫館等にして旅客には最も便利の設備ありと云ふ。

●旅館　當市の高等旅館の有名なるは中島屋、頭谷、かぎや、早瀨等とす就中、中島旅館は今回新に三層の高樓を增築し高等客室數室を增し總ての設備を整へたれば一層旅情を慰むるものあらん。

●青森市の記事に就て　今春曠古未曾有の大火の爲め同市街繁盛の區域の大半は盡く灰燼に歸し去りたるは千古の恨事にして亦同市の爲め一掬の同情なき克はず半ば再築の事ありと雖も未だ以て舊狀に復せず加るに同市の記事を此冊子中より抹消するに忍びず故に須く其儘存して以て異日舊狀に復するのときをまて新に再記することゝ爲すべし讀者之を諒とせよ。

東京海上保險株式會社
青森代理店
日本運輸株式會社
青森代理店

青森大林區署製材所製品運送

同所門前
東北社派出所
電話二十三番

青森
東北社
電話二十二番

大鰐驛前
東北社派出所

今回同處ニ於テ全般發着貨物取扱可仕候ニ付青森本社同樣多大之御同情御引廻被成下度奉願候

海陸接續
貨物運送取扱
天龍運輸株式會社
青森代理店

青森聯絡
仙臺ホテル
青森停車場構内
大泉梅次郎

御待合所

株式會社 第五十九銀行青森支店
青森市大字大町
電略(五ヲ)
電話(五十九番)

株式會社 第五十九銀行安方出張所
青森市大字安方町
電略(五ヤ)
電話(三一九番)

鐵道指定旅館

旅館

青森
大町
本店
電話(廿六番)
停車場前
支店
電話(廿七番)
森

許免省務内

家元傳祖 かつけ大妙藥

許免省務内

家元傳祖 かつけ丸

許免省務内

家元傳祖 ひぜんの妙藥

許免省務内

家元傳祖 しもやけ大妙藥

許免省務内

家元傳祖 リウマチス妙藥

登録 商標

製造元 北海道札幌區南一條西六丁目一番 安達妙藥堂 電話七四七番

安達妙藥堂東京支店

東京淺草馬道公園區役所通ノ

265
400

最上醬油

全道到る處販賣店有

今井合名會社
旭川釀造所

全國至る所の呉服店
及雑貨店にあり

鬼印

コール天足袋
コール天シャツ
コール天股引
コール天半ズボン

東京淺草詠歌町
製造發賣元 平 寺田商店
電話國下谷二一六四番
振替口座東京八三六七番